

令和4年春の叙勲伝達式の実施 (サチオ・カユカワ氏)

6月17日、在クリチバ総領事館は、アプカラナ市において令和4年春の叙勲伝達式を実施し、浜田総領事からサチオ・カユカワ氏に対し、旭日小綬章の勲記及び勲章が伝達されました。

サチオ・カユカワ氏

アプカラナ市議会議員を史上最長となる7期にわたり務め、うち2期は議長を務めた。その間、同市最大規模のインフラプロジェクトや市内の交通事情改善に取り組み、同市の経済的発展に貢献。また、6月18日を「日本人移民の日」としてアプカラナ市の公式記念日に制定するために尽力したほか、市内の街路の名称を先人日本人移民の名前に改名する等、地域における日系人の地位向上及び対日理解の促進に貢献。

加えて、約10年間にわたりアプカラナ文化体育協会の会長を務め、その間にカユカワ氏が発案した「桜祭り」は現在ではパラナ州内外から多くの観光客が訪れる一大日本文化イベントとなっており、ブラジルにおける日本の文化・伝統の普及及び継承に貢献。

また、パラナ州の姉妹都市である兵庫県内の高校・大学とアプカラナ市の農業学校との交流事業を30年以上にわたり支援しており、日伯二国間における農業分野での人材交流促進にも寄与している。



サチオ・カユカワ氏と濱田総領事



伝達式出席者との記念撮影